

蕁麻疹

監修／島根県斐川中央クリニック 院長 下手 公一

症状と所見

処方

第一選択（急性期・慢性期共に）

皮膚の乾燥、発疹、発赤、胸脇苦満

→ 十味敗毒湯



急性期

体力がある

→ 葛根湯

体力に関係なく

→ 升麻葛根湯

寒冷蕁麻疹

→ 麻黄附子細辛湯・真武湯

心因性蕁麻疹

→ 加味逍遙散



慢性期

比較的体力がある（実証）

発汗、浮腫

→ 越婢加朮湯

体力は中等度（中間症）～体力がない（虚証）

月経不順、精神不安、肩こり

→ 加味逍遙散

浮腫、口渴

→ 茵陳五苓散

神経質

→ 香蘇散



1point ワンポイント・アドバイス

蕁麻疹は皮膚の紅斑や膨疹、またかゆみを伴う疾患です。蕁麻疹の治療の基本は、原因・悪化因子の除去・回避とヒスタミンH₁受容体拮抗薬（抗ヒスタミン薬）の内服ですが、抗ヒスタミン薬に治療抵抗性の蕁麻疹も少なくありません。

蕁麻疹の漢方治療において基本となる処方は十味敗毒湯ですが、急性期と慢性期に分けて考える必要があります。また、急性蕁麻疹、慢性蕁麻疹以外の病型がありますので、患者さんの皮膚の状態と証を見極めて適切な処方を選択することが必要です。